27AB-pm309

いわき明星大学におけるイグナイト教育を基盤とする初年次の教育：自己評価ルーブリックを用いたチーム基盤型学習（TBL）形式の数学教育の実践と評価

〇田島 裕久[1], 角田 大[1], 江藤 忠洋[1], 野原 幸男[1], 中越 元子[1]（[1]いわき明星大薬）

【目的】本学の新入生は、数学的能力において多様性を有しており、必ずしも薬学教育を進める上で充分な学力を備えている学生ばかりとは言いがたい。また、数学に対する学習意欲が高い学生ばかりではなく、受動型教育のみでは限界がある。本学では、初年次の教育として、薬学教育に必須である数学的能力を開発するために、自己評価ルーブリックを用いたＴＢＬ形式の数学教育「数学入門」をおこなった。

【方法】２週を１セットとし、計７セットを実施した。第１週は個別学習を行う週、第２週はＳＧＤを行う週に分けた。まず、毎回予習として自己評価のためのルーブリックを作成させ、自己目標と課題を明確化した。第１週の個別学習では、全体講義を行い、基本的数学知識の確認を行うとともに、演習を行い、個々の習熟度の自己確認を行った。第２週は、前回の復習テストにて習熟度の確認を行った後、複数の課題についてＳＧＤを行い、得られた知識の確認を行った。毎回授業の最後に、ルーブリック評価にて自己達成度を評価させた。また、１５週のうちの前半と後半の計２回、グループ内での貢献度を相互評価させ、グループ内で閲覧可能にし、迅速にフィードバックした。

【結果・考察】自己評価ルーブリックにより、自己達成度を評価させたところ、良好であった。また、授業改善アンケートの結果も良好であった。さらに、他の教科の学修をする上でも数学の科目としての重要性も、１年生の間で認知されるようになってきていることから、自己評価ルーブリックを用いたＴＢＬ形式の数学教育により一定の学修効果が得られたと考えられる。